



学校だより

3月号
令和5年2月28日
横浜市立洋光台第四小学校

～ 手を取りあい ぐんぐんのびる しんめの子 ～
ホームページもご覧ください。www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

バトンをつなぐ

校長 山口 高弘

正門横の梅の花も咲き、良い香りが漂っています。いよいよ3月、令和4年度の締めくくりの時期になりました。今の学年で身に付けるべき力をしっかり付けて進級、卒業させ、令和5年度にうまくつなげていきたいと思っています。

3月は、リレーに例えるとバトンゾーンだと思います。一人ひとりが一学年上の自分にバトンを渡す月です。また、学校全体の役割でいえば、6年生が5年生に、5年生は4年生に.....2年生は1年生に、バトンを渡す月でもあります。特に、小学校では6年生が要となります。6年生はこれまで洋光台第四小学校のリーダーの役割を果たしてきてくれました。このバトンは重かったかもしれませんが、誇りや自尊心を支えてくれるものであったかもしれません。しかし、このバトンを持ってしっかりと走り切ることで、思いやりや優しさ、責任感、中学校進学への自覚等を身に付けていきます。そして、5年生はこのバトンを引き継ぐことで、洋光台第四小学校の最上級生としての意識や思いをもつことができるのではないのでしょうか。もしかしたら、最初は6年生のように上手に速くは走れないかもしれませんが、でも、バトンをしっかりと受け取り、次につなぐように頑張ってくれることでしょう。



先日行われた、「しんめ班お別れ会計画」では、5年生が中心となって1年生から4年生のしんめ班の仲間に、お別れ会の計画について説明したり役割を決めたりしていました。前に立つ5年生の子どもたちの顔には、緊張と誇りの表情が見られました。来年度も素敵な6年生に成長していくことと思います。小学校では、毎年このように最上級生から次の最上級生にバトンをつないできました。

5年生は、バトンを渡してくれた6年生にあこがれ、一步でも近づこうと努力し、そのバトンを丁寧に次に渡す。それが学校の文化や伝統を築いていきます。これまでバトンをつないでくれた6年生が、地域にはたくさん住んでいます。もちろん、本校の保護者の中にもいらっしゃいます。これらのつながりが学校、そして洋光台地区でのつながりとなっています。

ところで、リレーに勝利する極意は何でしょう。私は「感謝と信頼」の気持ちであると思います。次走者は前走者の走りを決して批判せずに、バトンをつないでくれたことに心から感謝して走り続けること。そして、前走者はバトンを渡した後、次走者の走りを信頼の気持ちをもってひたすら応援し続けること。これこそ、文化や伝統そして人々の心をつなぐことになるのだと思います。このバトンパスは、学校だけでなく家庭や地域社会でも同じことが言えると思います。

卒業証書授与式までの期間に、様々なバトンが次の学年や児童に渡されていきます。すべてのバトンがしっかりと渡されていくことを願っています。

保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動に温かなご支援・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。